

# 「比」構文における誤用分析と教授法について

張 書 涵

## 要旨

本稿は日本人学生の中国語学習者の書いた「比」の作文を中心に収集した日本人中国語学習者（以下、日本人学習者と呼ぶ）が「比」構文を習得する過程において現れる誤用例を分析し、その傾向、原因および対策、教授法を探ることを目的とするものである。まず教科書から取り上げられている14種類の「比」構文について、日本人学習者の作文に現れる誤用に副詞の誤用、補語の誤用、日本語語順の干渉による誤用、文成分の欠落および否定文の誤用との五方面から詳しい分析を与えた上で、教育における対応策について論じた。

キーワード：「比」構文、誤用、誤用分析、教授法

## 1. はじめに

本稿は日本人学生の中国語学習者の書いた「比」の作文を中心に収集した日本人中国語学習者が「比」構文を習得する過程において現れる誤用例を分析し、その傾向、原因および対策、教授法を探ることを目的とするものである。

## 2. 「比」構文

前置詞「比」を用いた文は、意味的には二つ以上の物事についてそれらが共通して持つ性質や特徴によって比較する表現であり、構文的には「比」の前置詞句が状況語となり、全体が「A比B+C」の形式となり、AとBが主節と比較節となり、Cが比較した結果という構造である。「比」構文は、極めて頻繁に使われる常用表現であるが、語彙や文法の使用条件が複雑なだけでなく、多様な用法があり、様々な文脈に用いられるので、外国人学習者にとって習得することが難しく、誤用が出やすい表現である。更に母語からの干渉も問題をますます複雑なものにし、教学上における一つの難点となっているのである。

日本の初級・中級レベルの中国語教科書において「比」構文形式が一般的に取り上げられているのは、次のような構文であり、本稿のターゲットでもある。これからの分析のために日本語訳を付けておく。

A比B（+还/更）+形容詞（+数量補語）

AはBより（更に）（数量）C。

他比我高。/ 今年的冬天比去年还冷。/ 今年的冬天比去年更冷。/ 他比我大两岁。

彼は僕より背が高い。/ 今年の冬は昨年よりも寒い。/ 今年の冬は昨年より更に寒い。/ 彼は私より二歳年上だ。

A比B+形容詞+不定の数量補語（一点儿、一些）

AはBより少しC。

他比我大一点儿。/ 他比我大一些。

彼は私より少し年上だ。/ 彼は私より少し年上だ。

A (+動詞)(+目的語)+動詞+程度補語前半+比B+程度補語後半

AはBより～するのがC。

他走得比我快。/他(写)字写得比我好。

彼は私より歩くのが速い。/彼は私より字を書くのが上手だ。

A比B(+動詞)(+目的語)+動詞+程度補語

AはBより～するのがC。

他比我走得快。/他比我写字写得好。

彼は私より歩くのが速い。/彼は私より字を書くのが上手だ。

A(+動詞)+目的語+比B+動詞+程度補語

AはBより～するのがC。

他(写)字比我写得好。

彼は字を私より書くのが上手だ。

A比B+心理動詞句

AはBよりC。

姐姐比我喜欢猫。

姉は私より猫が好きだ。

A比B+能愿動詞/心理動詞+動詞句

AはBより～することができる/～したい/～するのが上手だ。

他比我能吃。/她比我会做。

彼は僕よりよく食べられる。/彼女は私より上手に作れる。

A比B+動詞+数量目的語

AはBより数量増える/減る。

去年我们班的人数很少,今年比去年增加了一倍。

昨年はクラス的人数がとても少なかったが、今年は去年より倍増えた。

A比B+多/少/早/晚+動詞+数量補語

AはBより数量多く/少なく/時間早く/遅くC。

他比我早来十分钟。

彼は私より十分早く来た。

A比+疑問代詞+都+形容詞

Aは誰/どこ/何よりもC。

他比谁都聪明。/北京比哪儿都好。/这个比哪个都好。

彼は誰よりもかしこい。/北京はどこよりもよい。/これはどれよりもよい。

A不比B+形容詞

AはBよりCではない。

她的汉语不比你差。/他不比你聪明。

彼女の中国語はあなたより劣っていない。/彼は君より賢くない。

A不如B(+形容詞)

AよりBのほうがC。

这个手机不如那个手机好。/坐火车去不如坐船去。

この携帯はあの携帯ほどよくない。/汽車で行くより船で行ったほうがよい。

A有/没有B+(这么/那么)+形容詞

AはBほどC。/AはBほどのCがない。

## 「比」構文における誤用分析と教授法について

弟弟有我（这么）高了。 / 大阪没有北海道（那么）冷。

弟は私ほどの背丈になった。 / 大阪は北海道ほど寒くない。

(A) 没有比B + 更 / 再 ~。(最上級を表す)

(Aは) Bよりも ~の ~がない。

AはBよりも ~の ~を持たない。

我没有比这件更 / 再好的衣服了。

私にはこれより良い服はない。

### 3. 誤用と誤用分析

日本人学習者の作文に現れる「比」構文の誤用は、おおよそ以下の分類が可能である。

副詞の誤用

補語の誤用

日本語語順の干渉による誤用

文成分の欠落

否定文の誤用

以下、この分類順に誤用を分析していく。

#### 3.1 副詞の誤用

\* 这个比那个非常好。

\* 今天比昨天很冷。

\* 你的手机比我的手机真好看。

\* 我弟弟比我太高。

\* 弟弟比我有点儿高。

\* 田中的汉语不比他更好。

~ は、初級中国語の学習者が犯しやすい誤用のパターンである。日本語は「これはあれより非常によい」と言えるが、中国語は日本語のように「好」などの副詞的な修飾語がすぐ形容詞の前にきて、「这个比那个非常好」とは言えない。

形容詞が表す性質というものは、絶対的なものではなく、例えば、低いものどうしを比べて、「どちらも低いが、こちらのほうがより高い」というように表現するものである。また、文中での副詞の使い方も中国語は日本語と異なっている。中国語の程度副詞は普通絶対的な程度副詞と相対的な程度副詞に分けられ、「非常 / 非常に」、「真 / まことに」、「太 / あまりにも」などの副詞を絶対的な程度副詞とされる。このような副詞は、他のものと比べるのではなく、ただ程度を表すものである。例えば、「很好」は単にその程度がとてもよいことを表し、物事と比べているわけではない。

比較というのは、物事の程度について、どのくらいの差があるのかということの問題にする表現なので、程度副詞を使う場合は、比較の度合いを示す程度副詞でなければならない。形容詞の前に「更 / さらに」、「还 / もっと」などの相対的な比較を表す程度副詞を使い、「今天比昨天还（更）冷」、「这个比那个还（更）好」のような表現が正しいのに対して、「非常 / 非常に」、「真 / まことに」、「太 / あまりにも」というような絶対的な程度副詞は「比」と共起することができないわけである。

従って、このグループの誤用は、絶対的な程度副詞と相対的な程度副詞の区別をしなかったことに起因するものである。

例 の「弟弟比我有点儿高」は、AはBより少し差があるという意味を表そうとしたものだが、副詞「有点儿 / 少し」は「今天有点儿冷」、「我肚子有点儿饿了」のように、本意なこと、望ましくないことを表現するのに使われるもので、単に比較する場合は用いられない。この場合、「弟弟比我稍

微高一点儿」や「我弟弟比我高一些」や「我弟弟比我高(一)点儿」のように、述語の後に「(一)点儿」や「一些」など無色な数量詞を用いれば、正しい言い方となる。

例の「田中の汉语不比他更好」と類似の誤用はほかに「弟弟不比我跑得更快」や「他不比我还高」があるが、いずれも「田中の汉语比他更好」や「弟弟比我跑得更快」や「他比我还高」の否定文とされる。これらの誤用は、述語の前に「更/还」が付加されて引き起こしたものである。

「A比B+C」という表現において「更/还」という副詞がある場合、否定が問題となる。ある条件においては限定的に「没」を使うことができるが、「不」が使えない。例えば、「他比你更胖了」「他没比你更胖」や「他跑得比你更快了」「他没比你跑得更快」とは言える。これは「没」が動態比較についての否定に用いられていると考えられるが、本稿はこれについて議論しない。

では、なぜ「A比B更/还C」構文に対して、「不」による否定ができないのか。まず「不」の否定範囲が一因となる。「不」のスコープは、「不」の後ろに続く「比B更/还C」のすべてである。そして「不」は、それが否定する部分とは修飾と被修飾の関係になければならない。

例えば「弟弟比我还高」という文が、「弟弟不比我更高」という形で否定した場合、「比我还高」は「不」の否定スコープとなる。しかし、この場合、「不」と「比B更/还C」すなわち「比我还高」とは修飾と被修飾の関係がなしていないので、「弟弟不比我更高」が非文となる。

「A不比B更/还C」が成り立たないもう一つの理由は構造と意味がねじれることにある。文の順序からすれば、「不」が直接に否定しているのは「更/还C」ではなく、「比B」である。ところが、意味的に「更/还C」に対する否定は「比B」に対するそれよりも強く、文の焦点になってしまっているため、非文となるのである。

### 3.2 補語の誤用

#### a) 数量補語

- \* 哥哥比我三岁大。
- \* 他比我三公分高。
- \* 这个比那个一点儿好。
- \* 今年的课比去年一些多。
- \* 他比我更大两岁。

これらの誤用文は、補語の部分、つまり比較した結果としての「差」をどういう語順で言うかが問題となる。これはAとBの差がどのくらいあるかを述べるときは、述語の後に補語としての数量詞を加えるので、「A比B+形容詞+数量補語」という形式となる。数量補語の「三岁」「三公分」は形容詞「大」「高」の後ろに用いるべきであり、と は、おおよその程度を表す数量詞の「一点儿」「一些」を形容詞「好」「多」の後に用いるべきである。また差の大きいことを表すのに、「A比B+形容詞/動詞+程度補語(多了/得多)」のように、程度補語「多了/得多」を用いることになる。「这个教室比那个教室大得多」「这个教室比那个教室大多了」がその例である。

は「彼は私より更に2才年上だ」という日本語の直訳で、中国語の正しい文に直すと「他比我还大两岁」となる。数量補語の「两岁」をはずせば、「他比我更大」も「他比我还大」も成り立つし、補語の部分が概数で表す場合も、「他比我更大一些」「他比我更大一点儿」「他比我还大一些」「他比我还大一点儿」のように表現することができる。しかし、補語が表す数量が具体的な場合になると、「更」の文が成立しなくなる。その理由については、沈紅丹(2003年)の分析によると、「还」と「更」の文の補語の部分は意味の重点に当たり、「还」文の具体的な数量補語の語義が「还」文そのものの意味に含まれており、両者が一致する関係を持つため、同時に表現することができる。それに対して、「更」はそういう関係を持たないので、同時に表れることができないわけである。しかし、「一些」「一点儿」などのようなはっきりしない曖昧な数量なら、具体的にある一点を示すことがないので、「更」

文の補語位置に用いることができるということである。

b) 程度補語の欠落

- \* 今天我比田中早来了。
- \* 我比他快写。
- \* 他的汉语比我好说。

～ も、中国語学習者の作文によく現れる誤用である。これらの比較文において、結果部分の「早」「快」「好」が動詞や形容詞つまり用言について補足説明をするものなので、補語の形式を取らなければならない。で言うと、「早」は必ず補語の形を取り、動詞述語「来」の後ろに置き、「今天我比田中来得早」に直すべきである。「早来」としてしまふのは、日本語による干渉である。なぜなら同じ意味を日本語で表現するなら、「私は田中さんより早く来た」ということになり、「早く」という副詞が動詞の前に置かれる。

中国語は目的語と補語が必ず動詞の後に位置する。目的語と補語が同時に表れる場合は、その実際運用はもう少し複雑である。たとえば、「彼は私より字が上手だ」という場合に「他比我写字写得好」か「他写字写得比我好」となり、「A比B + 動詞 + 目的語 + 同一動詞 + 程度補語」か「A + 動詞 + 目的語 + 同一動詞 + 程度補語前半 + 比B + 程度補語後半」の形式となる。さらに目的語を主語の前に置かれる「字他写得比我好」も、目的語が動詞の前、主語の後ろに置かれる「他字写得比我好」という語順も成立する。この語順が間違えられたり、程度補語が部分的不足したりする誤用も多く見られるが、これは日本語の干渉よりも中国語の形式を把握しきれないことから来る誤用である。

c) 補語の過剰使用

- \* 今天我比木村来得早十分钟。
- \* 他比我三个小时睡得早。
- \* 我跑得比伊藤快得多了。

これらの誤用は、程度補語と数量補語の二種類が同時に用いられることから来るものである。中国語では、一つ文に同時に程度補語と数量補語を使うことができないので、～ 意味の場合は、「A比B + 多/少/早/晚 + 動詞 + 数量補語」か「A比B (+ 動詞)(+ 目的語) + 動詞 + 程度補語」という形で表現するしかなく、「今天我比木村早来十分钟」あるいは「今天我比木村来得早」、「他比我早睡三个小时」あるいは「他比我睡得早」となる。

例 は、AはBと比べた結果の差が大きいことを表そうとするので、この場合は、「A比B...得多」あるいは「A比B...多了」のどちらかの形式が用いられるが、両形式の併用はできない。は「我跑得比伊藤快多了」または「我跑得比伊藤快得多」に直すべきである。

3.3 日本語語順の干渉による誤用

- \* 比我她好看。
- \* 她比谁也好。
- \* 你比我也写字很好。

これらの誤用は、日本語の語順のまま中国語に訳すことから来ているものである。は「私より彼女のほうがきれいだ」の直訳であろうし、は「彼女は誰よりもいい人だ」、は「君は僕よりも字を書くのがとても上手だ」であろう。それぞれ「她比我好看」、「她比谁都好」、「你比我写字写得好好/你(写)字比我写得好好」と言うべきである。

3.4 文成分の欠落と過剰

- 羨 \* 他自行车比我快多了。
- 夏 \* 汉语难是难，但不比学习英语。
- 冀 \* 他比我的房间大。

變 他也有我这么喜欢旅游。

「比」構文は、構造からすれば、比較の主体・比較される対象・比較の基準・前置詞「比」・比較される属性・比較の差量の6つの成分を持つ。例えば、「我的房间比他的房间面积大20平方米」という文では、比較の主体は「我的房间」、比較される対象は「他的房间」、比較の基準は「面积」、比較される属性は「大」、比較の差量は「20平方米」となるが、日常会話では必ずしもそれらの成分がすべて揃うとは限らない。例えば、「这个房间的面积比那个房间的面积大」では比較の差量に触れられていないし、「这个房间比那个房间大20平方米」では比較の基準としての「面积」が現れていない。後者の文における「大」という形容詞が面積を間接的に支配する文法装置としての機能を持つものとして捉えることができる。例えば、「这个房间比那个房间大20平方米」では、比較の基準が表れていないが、比較の属性としての「大」を通じて面積が比較の基準であるということが確定できるわけである。

しかし、變は比較基準がはっきりしない。「他」は「我」と何を比べるのか、「骑」が速いなら、基準としての「骑」という動詞がないし、自転車そのものが速いなら、「他的自行车」とすべきである。夏も前文に「汉语难是难」があるものの、比較文には比較される属性が表現されず、意味が不明になってしまった。「汉语难是难，但不比英语难」となれば、正しい表現となる。

量は、比較されるA Bは同じものなので、完全に言うと、「他的房间比我的房间大」となるが、重複を避けるため、一方の「~的房间」が省略されたと考えられる。しかし、日常的な会話では、「比」の前後の語彙や成分が同じである場合、文を簡潔にさせるのには、一般に「他睡觉比我(睡觉)早」、「他的笔比我的(笔)多」のように「比」の後の項目成分を省略する。量「比」の前の項目成分が省略されたために、「他」が「房间」と比べられることになってしまい、非文になるのである。

變は、「有~这么~」の文型と「跟~一样」の文型と混用した誤用である。意味的には「彼は私と同じように旅行が好きだ」と表現しようとしているのであろうが、二つの形式を混ぜて使ってしまった。

### 3.5 否定文の誤用

- 變 \* 我的汉语水平比他的汉语水平不高。
- 變 \* 我的成绩比田中同学不好。
- 變 \* 我没有你那么矮。
- 夕 \* 我的房间没有你的那么小，你的房间太小了。
- 外 \* 我不比他小三岁。
- 死 \* 他不比我早到五分钟。
- 外 \* 我没有比他小一岁。

「比」構文においては、否定副詞「不」が「比」の前に置かなければならないが、變 變では、それが述語の前になってしまっている。また、中国語の否定の「比」構文に「A没有B+C」が用いられることが多いので、「我的汉语水平没有他的汉语水平高」、「我的成绩没有田中同学的成绩好」と直すこともできる。

もちろん、「A没有B+C」という言い方と「A不比B+C」とはまったく同じというわけではない。「A没有B+C」はA B両者の相違を強調する意味合いが強く、A B間の程度の高低に違いがあることを強調する表現であるのに対して、「A不比B+C」は、AとBの両者が同じ傾向にあって、どちらが強くてどちらが弱いということを強調するのではなく、「A比B+C」という前の話題に対する反論として用いられるのが普通である。また、「A没有B+C」と「A不比B+C」とでは、主観性の程度も異なっており、「A不比B+C」の主観性がより高い表現である。

變 夕も「A没有B+C」が使われるが、語用論的な誤用を犯している。「A没有B+C」は「A不



如「B + C」の形式と同じように、ある側面からAを否定し、Bを肯定するが、この場合Cは必ずプラスの意味であり、話者の望む気持ちを表す内容である。Cには、例えば、「好」、「懂」、「美」、「好学」など、肯定的な意味合いの語が用いられる。もちろん、「大、小、多、少」といった語は、マイナスの意味を表すか、それともプラスの意味を表すか、それだけでは判断できないが、「他家没有我家的房间多」「这个教室没有那个教室大」など、具体的な表現にあれば、当然部屋の数は多いほうがいい、教室の大きさは広いほうがいいという常識から推測される話者の考えが反映され、「多」、「大」も価値判断が伴われてくる。この場合、マイナス価値判断の読みがあるなら、「A没有B + C」が用いられない。夆夕の「我没有你那么矮」「我的房间没有你的那么小，你的房间太小了」の「矮」「小」はマイナス価値判断が伴われるので、「A没有B + C」を使うことができない。同様に、「小李比小王难看」、「他跑得比我慢」という表現は、その否定に「小李不如小王难看」、「他跑得不如我慢」といった形式が用いられない。

外 夆の誤用は、比較の属性の語意指向が曖昧性なので、AとBの差が把握できないことから来るものである。ただし、前後関係でわかる場合は、その曖昧性がなくなる。例えば、「哥哥不比弟弟高」の場合、「弟弟」の身長が既知の旧情報なら、「哥哥」の身長も「弟弟」の身長より判明することができる。ところが外なら、「我」の年齢が文脈でわからないので、否定文として成り立たないものになってしまう。

如「我没有比他小一岁」は、二つの否定形式が混ざっている。「比」構文と「有」構文がそれぞれの否定式を有しているので、「他不比我高」と「他没有我高」がそれぞれ言えるが、外は両者が一つの文に混ぜられているので、非文となるのである。李讷、石毓智（1998年）は「没」は名詞と文の中心となる動詞を否定するものであるのに対し、「不」は動詞あるいは文の中心となる形容詞を否定するものであるとし、時間的な視点からみると、「没」は過去のことを否定するが、「不」は非時間的なことを否定すると主張している。

更に外は、「A没有B + C」の形で、「AはBほどではない」、「AはBに達していない」といった意味になり、AがBのレベルに「到達」していないことを表す。到達するのは、「大」ではなくて「小」とは語用論的に不自然である。「小」を「大」に置き換えたとしても、「我没有他（那么）大」（私は年齢が彼ほどではない）という完結の文に、「一岁」が余計に付けられ、意味に矛盾が生じてしまう。「我有他（那么）大」（私は年齢が彼と同じくらいだ）に数量を付けないのと同じ理由で、「我没有比他小一岁」は非文になる。

#### 4 . 誤用原因のまとめ

以上、様々な誤用例を挙げてきたが、再度ここでその原因をまとめる。

##### 4 .1 母語の干渉による誤用

日本人学習者が初期の段階では、母語を通して目標言語に訳すというプロセスを経るため、母語である日本語の影響によって、日本語の文法をそのまま中国語の構文に当てはめることになってしまい、誤用が生じてしまうのである。また、日中間の文化背景、思考習慣など多方面の相違によっても誤用が作られてしまうのである。学習者が中国語を学ぶ時、母語である日本語の知識と経験などが中国語の学習に影響を与える同時に、母語である日本語の文化的な要素、異なった民族の考え方および文化的な心理上の相違も言語表現上に反映される。

文法的には、まとめれば以下の3点に集中する。

##### 日本語の語順による干渉

日本語は語尾、接頭語と接尾語に助けを借りて各種の文法意義を表現する言語で、語順が中国語と異なる。学習者は日本語の文法をそのまま中国語に当てはめて、「她比谁也好」、「你比我也写字很好」

などのような語順の誤用を引き起こしてしまうのである。

#### 日本語による類推のはずれ

「彼は私の部屋より大きい」といった日本語の比較文においては、比較項目と比較される項目の名詞が連体修飾語を持つならば、前項の名詞と後項の名詞のどちらか省略できるが、比較項目と比較される項目のフレーズが同じ中心語あるいは述語を持つならば、前項の部分と後項の部分もどちらか省略することができる。これに対して、中国語ではそのような使い方ができないので、日本人学習者は母語である日本語を中国語に類推して、「他比我的房间大」のような誤用の文を作ってしまうのである。

#### 副詞による干渉

日本語では、「今日は昨日よりたいへん暑い」のように副詞「たいへん」は、比較文に使われるため、日本人学習者は副詞「很」がいかなる条件のもとでも日本語と同様にすべての形容詞を修飾することができると思ひこみ、「今天比昨天很冷」のような誤用を作ってしまう。また、「更」、「还」、否定の「不」も同じ仕組みで誤用の文が現れるのである。

#### 4.2 既習の英語知識の干渉による誤用

学習者が目標言語を学ぶ以前に既習した外国語が目標言語を学ぶことに大きな影響を与えることがある。興水優氏は、日本人学生が中国語の文法を学ぶ際に、「日本の学生にとって、外国語と言うと圧倒的に英語」であると指摘し(興水優1995)、更に「大学で外国語を言うともまず思い浮かべるのは英語で、文法を言うとも英語の文法をも思い浮かべる」と指摘する(興水優1988)。そのために、日本人学生は中国語を学ぶときは、ただ母語の影響を受けているだけではなく、また英語の干渉もを受けている。日本人学生は中学校から英語の教育を受けてきたので、その他の外国語の文法知識を学ぶときは、知らずにまず英語の文法構造で考えてしまうのである。

#### 4.3 限られる中国語の知識による干渉

中国語学習者が文を作る際は、学習した中国語がまだ完全に身につけられておらず、中国語に関する知識と語彙が不足し、体系化していないが、類推思考の働きで、不完全な中国語の知識を新しい表現や形式に当てはめてしまう。たとえば、「今天我比木村来得早十分钟」などのような誤用は補語表現の混乱から現れるもので、まだ補語の使い方と文法の特徴を十分に理解していないためだと考えられる。

#### 5. 誤用への対応

上で見てきたように、中国語学習者にとって、比較文の語順と補語の使い方は特に難しいことが明らかになった。今後、学習者がそのような問題点を回避するために、日本人学習者に対して「比」構文の指導に当たっては、基本意味を説明すると共に、十分な用例を挙げ、文法構造や文の構造における語の意味を理解してもらふ必要がある。特に補語については、学習者の母語の影響だけではなく、そのものの持つ難しさも、習得を困難にさせていると考えられるので、補語がもつ様々な意味や働きがいかに重要なのか、十分に学習者に理解させることが大切である。また、対応する日本語表現と比較し、理解を妨げるところを常に学習者に気付かせられれば、学習上の問題も少なくなるのではないかとと思われる。

#### 6. おわりに

本稿では、日本人学習者の比較文の誤用例を中心に考察し、誤用の傾向や原因およびこれからの対応策などについて論じてきた。教育現場の誤用に限られること、また筆者の知識と能力に限界があるために、日本人学習者に見られる文法的誤用の全貌を反映させることができていないのではないかと



## 「比」構文における誤用分析と教授法について

いう嫌いが無きに有らずである。また、個々のケースに関しても中国語と日本語の対照的な分析、言語事実の捉え方や互いの異同の捉え方などにまだ説明不足の箇所が多々あると考えられる。これらは、今後更なる研究を続け、完全なものにしていきたい所存である。

### 参考文献

- 奥水优.1988《日本学生常犯的语法错误》『第四届国际汉语教学讨论会论文选』北京语言学院出版社.
- 奥水优.1995《日本学生学汉语语法》『第二届国际汉语教学讨论会论文选』北京语言学院出版社.
- 徐宝妹.1995《留日学生学日本語错句解析》上海外语教育出版社.
- 守屋宏則.1995『中国語文法の基礎』東方書店.
- 唐厚广.1997《“不如”句研究》『锦州师范学院学报』(哲学社会科学版).
- 李讷,石毓智.1998《汉语汉语比较句嬗变的动因》『世界汉语教学』03期.
- 李大忠.1999《偏误成因的思维心理分析》『语言教学与研究』.
- 白川博之監修,庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘著2001『日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 呂叔湘主编.2003《现代汉语八百词》商务印书社.
- 沈红丹.2003《含有“还”的比字句的语用分析》『杭州师范学院学报』(社会科学版).
- 徐茗.2005《比较句结果项与比较点的联系》『安徽师范大学学报』(人文社会科学版).
- 奥田祥子.2005「第二言語習得における母語の影響」『大東文化大学紀要』44号.
- 林润宣.2006《留学生语言偏误产生的原因分析》『嘉兴学院学报』.